

## 第4次豊後大野市キラキラこどもプラン（素案）に関する市民意見の募集の結果について

募集期間 令和7年2月4日（火）から令和7年2月17日（月）まで

番号	該当ページ等	ご意見の概要	市の考え方及び反映状況
1	20	<p>母親の就労状況について、H30年に比べると9割の母親が何らかの形で就労していることがわかる。しかし、フルタイムで働く割合は就学前保護者で約1割、小学生保護者で約0.5割とそれほど増えておらず、パートで働く割合が3.5割いる。その方々の困りを知ることで、課題が見えてくるのではないだろうか。フルタイムで働く準備等をしながら、短い時間で働くことができる就労の場が必要ではないか。</p>	<p>就労を望む保護者が、子育て等を理由に就労を諦めることが無いよう、仕事と家庭の両立や子育て中の家庭の負担軽減を図るため、社会全体のワークライフバランスの確立に向けた啓発に努めるとともに、活躍する女性の講話や就業支援に関する講座を継続的に開催し、女性の就業支援を推進します。</p>
2	29 他	<p>こどもの不定期の教育・保育サービスや宿泊を伴う一時預かり等の利用についてどのようなサービスがあるのか、自分自身が利用できるのかを相談できる窓口を知らない保護者は多い。「一時預かり」と言ってもどんなサービスがあるのかを分かりやすくできると助かる。</p>	<p>一時預かりを含めた各種教育・保育サービスについて、サービスを必要とする保護者やこどもに情報が行き届くよう、市ホームページや市報、パンフレットの配布等により、周知を推進します。</p>
3	29 他	<p>親のレスパイトや病気等の理由での一時預かりなどは、学校に通学したり、習い事や放課後の居場所の利用など安心できる日常を変えることのない、子ども権利を保障するものであってほしい。そのためには、豊後大野市内で利用できる「こどもショートステイ」の取り組みが必要だと考える。</p>	<p>ご意見にあるショートステイの取り組みについては、子育て短期支援事業として市内でも利用できる施設と契約を交わしています。今後はさらなる受入体制を確保するため、里親への委託を検討しています。</p>
4	40	<p>上から2行目に「ひとり親家庭の自立、障がい児施策の充実等に…」とあるが、p46の表に「障がい児への支援」とあるので、統一したほうが良いのではないか。</p>	<p>記載を統一します。また、固有の名詞である場合を除いて、「障がい児」を「障害のあるこども」に修正します。</p> <p>該当箇所については下記のとおりとなります。 「障がい児施策の充実等に…」→「障がいのあるこどもへの支援の充実等に…」</p>
5	40	<p>下から3行目に「発達障がい等の早期発見・早期支援を実施し…」とあるが病気と同じような言い回しになっているのが気になる。発達障がいという病気のようにとらえられないだろうか。「多様なこどもの成長を伴走できる支援」が必要ではないだろうか。</p>	<p>該当箇所について、下記のとおり修正します。 「発達障がい等の早期発見・早期支援を実施し、保護者の育児不安の軽減を行い、」→「支援を要するこどもを支援し、保護者の育児不安の軽減を行い、」</p>

6	65	<p>p 65 (11) 図書館における各種事業の充実          図書館は、豊後大野市で暮らす私たちに必要な情報が集まる重要拠点だと思うが、市内で行われる行事や子育て情報なども知ることができない。本を借りに来る親子が、市内の子育ての情報や催しについて目に触れる機会を増やしてほしい。ビブリオバトルなど本にまつわる取り組みをぜひ、図書館で行えるとうれしい。</p>	<p>該当箇所の施策内容を、下記のとおり修正し、取組を推進します。</p> <p>(施策内容)          図書館では、物語だけではなく、科学、芸術などの様々な分野のおはなし会等、各年齢、発達段階に応じた教育事業の拡充を行っていきます。          また、図書館が情報の収集及び発信の拠点として、さまざまな市民が集い・学び・情報を交換できる場となるよう努めます。</p>
7	78	<p>P78 (4) 発達に障がいがあるこどもに対する支援ファイルの活用          この表現に違和感を感じる。「支援が必要なこども」で良いのではないだろうか。実際、「療育手帳」が必要な既存のサービスなどがある以上、「発達障がい」という記載はなくなるのだと感じているが、先に述べた通り日本では社会が基準で「多様性」を認めると言いながら、別枠で考えようとしがちである。スタンダードを変えるしくみづくりが必要ではないだろうか。</p>	<p>該当箇所について、下記のとおり修正します。          「発達に障害のあるこども」→「支援が必要なこども」</p> <p>また、支援ファイルを活用し、支援が必要なこどもがそれぞれの個性に応じた、一貫した支援を受けられるよう取組みを推進します。</p>
8	85	<p>p 85 (1) 人材の育成          放課後児童クラブや子ども食堂、学習支援の場など地域住民が参加している活動は増えている。参加しやすい日程や取り組みにして欲しい。記載に「チャレンジ教室、放課後児童クラブや子ども食堂など」と具体的に入れていただきたい。</p>	<p>該当箇所の施策内容の一部を、下記のとおり修正します。          「また信頼できる大人との出会いとなるように、」→「チャレンジ教室、放課後児童クラブや子ども食堂など、こどもたちと地域住民の関わりが、信頼できる大人との出会いとなるように、」</p>
9	—	<p>子どもの定義は0～18歳だが、豊後大野市の子育て事業の大半が0～12歳対象ではないだろうか。もっと、高校生の居場所づくりや地域で活躍できる機会をつくることはできないだろうか。</p>	<p>18歳までのこどもを対象にライフステージに応じた切れ目のない支援を実施します。また、高校生年代までのこどもたちの居場所づくりや、意見を表明できる機会の充実に努めていきます。</p>
10	—	<p>プランの中に「切れ目ない」「継続した」と多く記載されているが、こども自身はどう感じているのだろうか。小学生から中学生、中学から高校、高校から大学など進学と就職など社会につながる見通しを、これまでのつくられた道だけでなく、休みながら寄り道しながらでも相談し続けられる環境づくりが必要ではないか。</p>	<p>各種施策の実施にあたっては、大人からこどもに押しつけるようなものにならないよう、真にこどもたちに寄り添った施策の実施に努めます。また、PDCAサイクルによる事業の評価、見直しを行い、子ども子育て施策をよりニーズにあった内容に改善していくよう取り組みます。</p>